

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「キャリア教育」の再考
学生支援担当副学長
経営学部教授
猿山 義広
- 2019 年度「学生による授業アンケート」
(前期) 集計結果
- 「知識提供型講義での
アクティブ・ラーニングの試み」
法学部教授 熊谷 芝青
- 令和元年度第 1 回FD研修会報告
- FD推進委員会今後の活動予定
- 2019 年度「公開授業」実施のお知らせ

「キャリア教育」の再考

学生支援担当副学長
経営学部教授 猿山 義広

2010（平成 22）年 3 月の大学設置基準の改正以降、大学におけるキャリア教育の重要性は飛躍的に高まった。同基準第 42 条の 2 において「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」と規定され、本学でも同年より、経済学部と GMS 学部が他大学と共同して、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業（就業力 GP）」で採択された「正課・課外を連携する自発的就業力育成」の事業に参加し、キャリア教育に関する多くの知見と経験を得てきた。

大学におけるキャリア教育は、大学が社会に出る直前の教育段階であることを踏まえ、社会・職業への移行を見据えたものであることが求められる。そこで推奨されるのが企業などで実施されるインターンシップであり、本学でも多くの学生が就職活動前にインターンシップを経験する。理想的には、すべての学生が正課教育において、教職課程の教育実習のように単位化された、2 週間以上のインターンシップを受けられるようにしたいが、引き受けてくれる企業や自治体・団体の数には限りがあり、実際には難しい。多くの学生は、正課教育外の 1 日か 2 日で終わる短期インターンシップや旅行代理店が企画する海外インターンシップで就職活動前の就業体験を積んでいる。

学内におけるキャリア教育では、経済産業省による「社会人基礎力」や文部科学省による「学士力」における「汎用的技能」「態度・志向性」の育成が中心になる。その育成にあたっては、学習活動や達成度を記録し、自己点検評価を行って、目標への接近度や達成度を確認しながら次の行動設計に反映させる仕組みが求められる。本学でも GPS-Academic というアセスメントテストが全学的に導入されており、学生が自分の成長について自己点検評価を行う環境は整っている。ただし、学生による自己点検評価に対して適切なアドバイスをを行い、成長を促進させるところまでは至っていない。今後はそうした成長支援のための取り組みを進めていきたい。